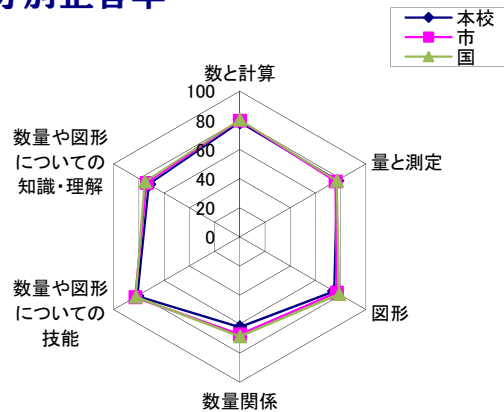


宇都宮市立宝木小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

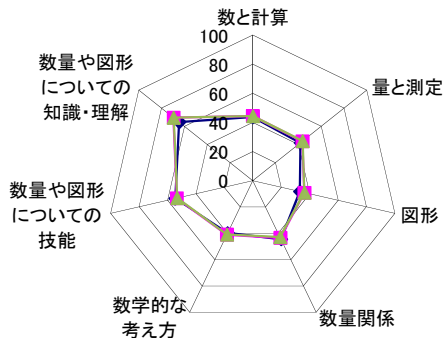
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	78.6	79.9	80.5
	量と測定	77.1	75.9	77.0
	図形	74.8	76.9	78.8
	数量関係	62.1	67.1	68.5
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	81.4	83.1	82.5
	数量や図形についての知識・理解	72.2	73.9	75.4



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	43.7	44.5	44.4
	量と測定	41.8	43.5	43.7
	図形	33.1	36.2	36.3
	数量関係	44.4	43.5	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	39.7	41.0	40.9
	数量や図形についての技能	54.6	53.5	53.3
	数量や図形についての知識・理解	64.6	69.6	69.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○末尾の位のそろっていない小数の加法、二つの数の大小関係を表す不等号の問題では、8割以上の正答率であった。</p> <p>●算数A・Bともに全国の平均より低い。除法の計算の確かめ、分数の乗法の計算をし約分をする問題では、正答率が市・全国よりも下回った。</p>	<p>・目的に応じて計算の結果の見積もりをする場を適宜位置づけ、計算の仕方や結果について振り返らせるようにする。</p> <p>・計算した結果が分数で表されている場合に、既約分数になっているかどうかを適宜確認させていく。</p>
量と測定	<p>○算数Aでは市の平均より2ポイント上回った。三角形の底辺と高さの関係についての理解の問題の正答率が8割以上であった。</p> <p>●単位量当たりの大きさの求め方、示された説明を解釈して別の場面に適用し説明する問題について、正答率が市・全国よりも下回った。</p>	<p>・問題場面を図に表して数量の関係を捉え、立式につなげるようにさせる。</p> <p>・自分の考えを様々な表現を用いて説明する機会を設ける。その際に過不足なく説明ができていないか確かめ合いながら説明の内容を言葉、図、式、さらには操作などと適切に関連づけさせていく。</p>
図形	<p>○図形の構成要素に着目して、図形を構成する問題について、市・全国の平均より上回り、正答率は8割以上であった。</p> <p>●算数A・Bとも、市・全国の平均より下回った。直方体における面と面の位置関係の問題、正方形に内接する円の半径の問題の正答率が市・全国よりも下回った。</p>	<p>・立方体や直方体の面に三角定規を当て、辺と辺、面と面、辺と面の平行や垂直の関係を調べるなど、具体的な活動を取り入れていく。</p> <p>・問題の解決に必要な図形の性質を想起させることができるよう、条件にあった作図する経験をたくさんさせていく。</p>
数量関係	<p>○算数Bでは、市・全国の平均を上回った。示された事柄について、二つの表を基に読み取ることが出来ない事柄を特定する問題では、市・全国ともに3ポイント以上上回った。</p> <p>●算数Aでは、市・全国の平均を下回った。全体の大きさに対する部分の割合や基準量と比較量の関係についての問題では、市・全国よりも下回った。</p>	<p>・場面を的確に捉えるために、簡単な図などに表させるようにする。</p> <p>・基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えることが大切であり、特に何が基準量に当たるのか意識させるため、問題の読み取りにおいて適宜確認していく。</p>